

① 分野別演習（就労）

「サービス提供プロセスの管理の実際 事例研究」

■ 演習の留意点

今研修も回数を重ね、現場の中で、サービス管理の重要性、サービス管理責任者の役割や個別支援計画の作成については、十分な理解と実践が積み重ねられてきました。

また、平成24年度からは、サービス等利用計画に基づいた個別支援計画の作成が必須となりましたが、そのしくみもようやく根付いてきた感があります。

今回も、そのような変化を鑑みながらも、時代やしぐみがどのように変わろうとも、ご本人の希望を受け止めながら、「人としての人生を支える」支援について、共に考えたいと思います。各分野の支援の固有性や分野間での連携も視野に入れながらサービス管理責任者の立場や役割について考えていきます。

演習当日までにこの事例を熟読され、ご本人の立場、ご家族の立場、生活支援側の立場、就労系事業所の立場等、ご自分を様々な立場に置き換えながら、その上で、「人として人を支える」という基本姿勢に立ち、具体的にどう考えて対応していくのかということをお考え頂きたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

■ 地域の状況及び社会資源

本人居住地の環境	人口は約10万人、人口の約30%は65歳以上の高齢者であり、人口の5%にあたる約5千人が障害者手帳を保持している。 県庁までは自動車で1時間、都市圏までは電車で1時間程度かかる。 産業は、新都市開発による工場誘致により第二次産業が増加傾向にある。 公共交通機関は地元の鉄道、行政バスがあるが、自動車が移動手段の中心である。
地域の社会資源の状況	障害福祉サービス事業は、市内の社会福祉法人やNPO法人により、就労継続支援A型・B型、生活介護、生活訓練、就労移行支援の各事業が整備されている。 相談窓口として、障がい者相談支援センター1ヶ所、特定相談事業所8ヶ所があり、障害者就業・生活支援センターは隣市にある。
地域の地場産業	自動車産業が盛んな地域であり、部品の製造をはじめとした下請け企業が多い。以前は、家内工業の工場がたくさんあり、職親制度等も利用して障害のある人の雇用がされていたが、最近はほとんどが閉鎖・倒産している会社が増えている。最近は観光客の誘致にも力を入れている。

利用予定の事業所の概況	多機能型事業所 就労移行支援事業 定員12名 就労継続支援B型事業 定員20名 現在の利用者は、身体・知的・精神など多様な障害種別の人が利用している。 グループホームからは自転車で15分の距離である。	
職員構成	管理者 1名(60代女性) サービス管理責任者 1名(40代男性) 職業指導員 3名(40代女性、60代男性、20代女性) 生活支援員 2名(30代女性、30代男性) 就労支援員 1名(30代女性)	
日課	*平日 9:30~16:00 *土日祝日は休所	
主な作業内容	作業内容	工賃の状況
	カフェ(接客、皿洗い、調理補助等)	時間 140円~170円
	組み立て作業	時間 200円~290円
	施設外就労 (近所の運送会社での倉庫内作業・袋詰め作業)	時間 270円~350円